

国土の均衡ある発展について

高橋かずちか

■■国土の均衡ある発展について思うこと■■

表現は変わっていても全国総合開発計画に掲げられている目標「均衡ある発展」については、中央と地方との公共事業問題に密接に関係していると思われます。本来は大都市圏集中の弊害を是正し、地方の発展により国家全体での経済発展を目指すものでありましたが、現実には「国土の均衡ある発展」という大義名分のもと利害関係者の権益を守り、景気対策や地方振興策の手段として活用されてきました。国は均衡ある発展というキーワードで地方への関与をさらに強め、政治家は地元への公共事業に対する予算確保として活動し、地方は国に対する依存体質から脱却できないでいる、こうした構図が垣間見えます。結局は金太郎飴的な国の政策・補助金等全国一律の政治社会システムによって地域は努力を怠り国に頼り、個性がなくなり自立性・パワーがなくなってしまったように思います。

「国土の均衡ある発展」をただの公共事業・インフラ整備として考えるならば、道路網（高速）整備や特に新幹線整備をみても着実に進展してきました。全国の隅々まで鉄道網が敷かれ、分を違わずに正確なダイヤで運行されている。しかしそれらが東京を基点としたため、逆に東京に更なる一極集中と繁栄をもたらしてしまいました。「国土の均衡ある発展」という国が掲げた言葉が、概念が解りにくく政策目標とはなり得ず、こうした利権構造を推進するための美辞麗句に過ぎなかったのではないのでしょうか。

地方の発展にとって大切なことは、住民が地域の歴史風土文化を尊重した地域性をもったうえで、自ら地域の主体となって自立すること、またそうした住民・団体を育てることです。地域内での経済的基盤を確立し、地域内で循環させて産業間に波及効果をもたらすこと、1次2次産業でのものづくりの拡大を進め同時に3次産業を育成し、産業構造の多角化を進めることが不可欠です。こうした地方分権型社会を築き上げる、すなわち地方の自立と経済発展を目指すのであれば、政治・社会システムを根本から変えなければ、東京での都市問題が周辺に拡散するだけのことで東京への一極集中に変わりはないと考えます。

ポイントは東京に集中している情報・金融・ヒト・本社機能等の全国的・国際的な中枢本社機能を分散させることが出来るか、そのためには現在の中央集権的政府機能を変えなくてはならないと思います。道州制の検討、提言がなされましたが結局自身の身分と利権に関わる議員と省庁官僚によってポーズだけとなっています。本来連邦制を含めて、首都東京と各ゾーンがいかに権限を持ち責任を負い独自性を出していくのか、それぞれの発展と特色づけの上で、日本国土全体としてどのような国家として進んでいくのかを考えるべきであると思います。国と地方と大都市の役割意義をしっかりと捉え、それぞれの地域がまたその集合体である国家が国際社会の中でどうあるべきなのか、社会・政治・行政のあるべき姿をしっかりと捉えて、政治・行政の根本改革をやらない限り、「国土の均衡ある発展」は言葉だけ世界となってしまいます。

以 上